

学校教育目標	「かしこく やさしく たくましく」
--------	-------------------

a ミッション	地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展	a ビジョン	地域や教職員が自校や地域に誇りが持て、地域から信頼される学校 めざす子供像 ○ 自ら考える子 ○ 思いやりのある子 ○ あきらめない子
---------	----------------------------	--------	--

尾道市立瀬戸田小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	主体的な学びの推進	アンケートの実施（前期）、国語科の学習にて全学年でルーブリック評価（後期）を実施し、児童の「振り返り」を充実、分析する	アンケートの肯定的評価、ルーブリック評価B以上の割合	80%	75%	84%	105	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの時間を通して、児童が自身の学びの状況を把握できるようになっている。</li> <li>児童に付たい力を明確にし、学習活動を計画することで指導の充実が図れた。</li> <li>教師が、活動の試行をすることで学習計画を見直すことができ、より良い学びを実践できた。</li> </ul>	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルーブリック評価と主体的な学びとの結びつきがよく分かりません。評価内容に疑問を感じるので評価は控えたい。</li> <li>児童の主体的な学びに向けて計画的に取り組み定着している。児童が学校で学んだことを身近な人、保護者にも伝え進んで活用が広がっていくことを期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習掲示や振り返りの時間を活用し、自身の学びの進捗を確認させる。</li> <li>単元学習を通して、児童が課題を自分事として考えられるように、指導と評価の改善を図る。</li> </ul>	
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科の授業研究・研修を1人2回以上実践</li> <li>モジュール学習を導入した基礎学力の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査の平均点が全国平均以上の学年の割合</li> <li>国語科単元末テスト80点以上の児童の割合</li> </ul>	100%	-	83%	83	B A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善を行った結果、昨年度比200%の達成率であった。</li> <li>国語科においては、読み取ったり、聞き取ったりしたことを、条件に合わせて表現することや敬語や辞書の使い方などの知識理解が不十分である。児童に書く力を付ける授業実践を行う。</li> <li>算数科では、基本的な計算や応用問題でつまづきが見られるのでモジュールや学力向上の時間を活用し、基礎学力の定着や応用問題の演習を行う。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の基本的計算力の定着を望む。</li> <li>日々のもろもろ学習の積み重ねが基礎学力の定着に好成果だと思う。</li> <li>書く力は児童が書く必要を感じ書いてよかったと思ったりする取組へ。「書く場と時間」の確保を設けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科では、複数資料から読み取り、自分の考えを表現させる授業実践、単元開発を進め、児童の書く力を伸ばす。</li> <li>算数科では題意に沿った図式化、場面の正確な読み取りをさせる。</li> <li>系統的なモジュール学習の継続実施。</li> </ul>	
豊かな心の育成	ルールやマナーを身につけ、自律した学校生活を送る意欲を高める。	学習規律の定着 授業開始・終了時の立腰・挨拶の統一と徹底	授業開始のチャイムまでに着席・整列している児童の割合	100%	84%	96%	96	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的にどの学年も時計やチャイムを意識して行動できる児童が増えた。委員会の放送や教師の声かけが児童の意識付けになった。また、教師の意識統一を図ることで、積極的な声かけや肯定的な指導が成果につながった。</li> </ul>	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観する機会がほとんどなかったため、評価することが難しい。</li> <li>教職員から児童達への働きかけが学習環境の雰囲気・学校風土の高まりとなっていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃からチャイム席が当たり前になるよう指導を継続していく。</li> <li>学校として取組むことは、教職員が意識統一して子供達にやりきらせる。</li> </ul>	
	落ち着いて学校生活を送ることのできる雰囲気の定着	気持ちのよい挨拶の励行	自分から進んで、誰にでもはっきりと挨拶することができる児童の割合	80%	79%	86%	108	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に挨拶運動に取り組むことができた。「あいさつの木」の掲示や表彰等が児童の意欲にもつながった。しかし、自己評価と他者評価（教師の見取り）にはまだ差があるように感じられる。</li> </ul>	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供達の自己評価と実態（定期的に街頭で交通指導をやってみている状態）がかなり異なっていると思う。</li> <li>9月の参観日に「あいさつの木」の伸びを楽しみに校舎内外を見渡しました。ある会で声かけ活動の様子を話し合ったところ、高根地域のみ100%の高い評価で次は南地域だった。あいさつの意義、よさ等地道な取組を地域と連携していくとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員がお手本になるよう意識して取り組み、肯定的な声かけを継続していく。また、活動内容についても6年担任や児童会と連携をしていく。</li> </ul>	
健やかな体の育成	心身の健康や体力の向上を図る教育活動の推進	自ら進んで体力づくりを行う児童の育成	外遊びとサーキットトレーニングを1週間に5回以上行った児童の割合	80%	68%	73%	91	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月は、校内持久走大会に向けたランタイムがあったため、全学年で達成できている。1年生と6年生の平均が高い割合を示している。1年生は、担任の声かけによって運動場に出て遊ぶことを強く意識している。6年生は友達を外に誘い合うことが多く、仲間意識が高まっていると考えられる。</li> <li>7月・9月の暑い時期には、鉄棒の鉄が熱くなりサーキットを回避することが多くあった。また、暑い時期にも手がかたんでしまい、意欲が低下した。12月以降はサーキットの代わりに縄跳び運動を全学年で実施した。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>屋内で過ごすことが多く運動不足を心配する中、学校全体で意識して運動習慣を身につける取組を続けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力づくり推進リーダーが中心となり、季節に合わせた運動を積極的に紹介・実践していく。</li> <li>各担任や児童の運動に対する意識を高め、授業や休憩時間にも意欲的に体を動かしていく声かけや環境作りを行っていく。</li> </ul>	
	体調による食事量の調整と完食	調整した食事量を完食できた児童の割合	90%	96%	96%	107	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食を残す児童が定着しているが、残食量の低下により、嫌いな食材でも一定量は食べている。</li> <li>給食のDVDより以前の給食準備の時間を短縮することで、より工夫をして食事時間を確保している。そのことで、残食量が減少している。</li> <li>肥満傾向児童への給食の量減らしに気を付けたり、最低15分間をかけてよく噛んで食事（カミカミの日）を設定し、外遊びの呼びかけを行ったりする取り組みが日々必要である。また、地元産の食材を生かした地産地消の紹介を行うことで、給食に興味を持たせていく。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>食べることは命をつなげ生きること、大勢の人々が関わっていることなど食事を通して食べる喜びを伝えてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年が上がるにつれて、児童自らが主体的に生活習慣を見直していけるように、これまでの給食指導や食育指導を継続して行っていく。</li> <li>保健指導を通して、食事・運動・睡眠とのつながりを考えさせる取組を行っていく。</li> </ul>		
学信校頼づくれる	小中高一貫教育の推進と開かれた学校づくり	学校の情報公開の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月のホームページ更新（学年のページを充実させる）</li> <li>全学年でふるさと学習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月のホームページ更新の割合</li> <li>年2回以上のふるさと学習の実施</li> </ul>	100%	100%	100%	100	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、HPの更新を行い、新しい生活様式の中での授業や、生活の様子が伝わるように情報発信を行った。年間を通じて、職員室前に更新したHPの写真を掲示し、児童にも自分たちの学校生活を確認させている。</li> <li>ふるさと学習については、感染拡大防止の観点で校外学習や講師招聘を自粛したが、ICT機器等を活用した課題追究の工夫を行った。</li> </ul>	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼されることを見取る項目で方策・方法に疑問を感じるため評価は控える。</li> <li>コロナ禍の現実を受け止めて前向きに学校生活や学習に臨んでいることが伝わる。児童の思いや考えなど書く活動が添えられるとより理解が生まれると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月末のHP更新が負担になった学年もあり、日常的に記録することを意識し、月末のルーチンとして、情報発信の手段としてHPの充実を図っていく。</li> <li>安全第一で、間接的に関わりが持てる授業形態による学習を工夫していく。教職員がICT教育についての研修を進め、情報収集や、情報発信を通して児童の情報リテラシー能力を高めていく。</li> </ul>

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）  
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100  
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。